

宇都宮市立豊郷南小学校 第6学年 児童質問調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「友達関係に満足していますか」の質問に対して、肯定的に答えた児童の割合は82.5%で県と比べて15.1ポイント高い。学級の友達と休み時間に外で遊ぶことや学級活動等の充実により、仲のよい友達関係がに築かれている。

○「5年生までの学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を活用することについて、楽しみながら学習を進めることができる」の質問に対して、肯定的に答えた児童の割合は58.8%で県と比べて9.2ポイント高い。一人一台端末を使うことで、調べ学習がしやすくなったり、自分の考えを文章で表現したりして友達と考えを共有できることに楽しさを感じている。

○「先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれていると思いますか」の質問に対して、肯定的に答えた児童の割合は67.0%で県と比べて12.1ポイント高い。教師が児童の実態を把握しながら、一人一人の課題に目を向けて関わることで、児童も学習内容を復習する意識が芽生えている。

●「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」の質問に対して、肯定的に答えた児童の割合は69.1%で県と比べて6.9ポイント低い。係活動や当番活動を通して責任をもって行動することの素晴らしさや、運動会等の学校行事を通してリーダーシップを発揮できる機会の場を設ける。

●「理科の授業で学習したことを普段の生活の中で活用できていますか」の質問に対して、肯定的に答えた児童の割合は17.5%で県と比べて13.2ポイント低い。ICT機器の活用や教材・教具を工夫して実験の面白さを実感できる授業を展開し、地球温暖化やテクノロジーの発展など学習したことを身近に感じたり、問題解決ができるように考えさせたりする時間を設けていきたい。

宇都宮市立豊郷南小学校（第6学年） 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
・主体的・対話的な学習を通して、表現力を高める指導	・めあての設定や振り返りの書き方などを工夫したり、自分の意見を相手に伝える学習に取り組んでいる。また、グループ活動やペア活動を取り入れ対話的な学習にも取り組んでいる。	・自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫する問題では、国・市の正答率を大きく下回っている。また、話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめる問題でも、国・市の正答率を大きく下回っている。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
・文字数による制限や条件つきで解答する問題に対して苦手意識を感じている。	・どの教科においても書く機会を増やしたり、自信をもって粘り強く取り組んだりできるようにする。	・意見文などの文章を読む機会を増やしたり、文章をくわしく書くために必要なことを確認したりして、文章表現を豊かにする素地を養うようにする。 ・指定された文字数や段落構成で文章が書けるように、授業の中でも条件に合わせて書く時間を設定する。